

令和4年10月25日

宇美町議会議長 古賀 ひろ子 殿

厚生文教常任委員会
委員長 白水 英至

厚生文教常任委員会視察研修報告書

標記のことについて下記のとおり報告いたします。

1. 期 日 令和4年10月17日（月）～18日（火）

2. 目 的 ・小中一貫教育の研究(義務教育学校について)
・議会ライブ中継の効果について
・人口減少の抑制施策

3. 視察地 ● 兵庫県姫路市
● 兵庫県加古郡稲美町

4. 出席者 ●厚生文教常任委員会（6名）
白水英至 高橋紳章 安川禎幸
藤木泰 平野龍彦 鳴海圭矢
古賀ひろ子（議長）佐々木壮一朗（教育長）

5. 兵庫県姫路市教育委員会視察（10月17日 研修1日目）

姫路市は、昭和21年に誕生し、商工業都市として発展。平成8年4月に中核市に移行、平成18年3月の家島町、夢前町、香寺町、安富町との合併により播磨地域の中核都市となった。

臨海部には重厚長大型企業が立地しており、企業立地の優遇制度や市内企業の支援策も充実させ、さらに企業誘致、企業立地の推進に努めている。

また、平成5年に世界文化遺産に指定された国宝姫路城屋などの歴史的建造物や貴重な文化遺産も数多く有している。市域面積534.35km²、人口53万人余りの都市である。

平成28年4月1日「学校教育法等の一部改正する法律」が施行され、学校教育制度の多様化及び弾力化を推進するために、小中一貫教育を実施することを目的とする義務教育学校の制度が創設された。

その義務教育学校は、心身の発達に応じて義務教育として行われる普通教育を基礎的なものから一貫して実施され、9年間を通じた教育課程を編成して系統的な教育を目指している。

また、平成29年12月の市議会において、姫路市立学校条例の改正案が可決され、義務教育学校として「姫路市白鷺小中学校」が平成30年4月1日に開校された。

姫路市の定義する小中一貫教育は、小中共通の教育目標・目指す子ども像の設定、9年間を見通した一貫した教育、小中教職員・保護者・地域住民による協働実践である。

学習指導要領に示された教育課程を準用しますが、児童生徒の実態、教科の特性や学習内容を総合的に判断し、必要に応じて履修学年を変えることが可能としている。7年生の学習内容を6年生の授業に前倒して学習することができ、その逆も可能である。また、所得教員免許に応じて、1年生～9年生まで学級担任、教科担任が可能になり6年生の担任がそのまま7年生に持ち上がることができる。

義務教育学校になると「小学1年生～6年生、中学1年生～3年生」の呼び方が「1年生～9年生」となり、小学校の教育課程（前期課程）を学ぶ1年生～6年生を小学部、中学校の教育課程（後期課程）を学ぶ7年生～9年生を中学部としている。

6、兵庫県加古郡稲美町議会視察（10月18日 研修2日目）

稲美町は、播磨平野東部の東播磨地域に位置し、東は神戸市、南は明石市、西は加古川市、北は三木市と4市に隣接している。

面積34.92km²、人口30,268人、世帯数11,384世帯、町域86%の3000haが農業振興地域に指定されている。

稲美町議会においては、議会ライブ配信を平成24年度から開始され、インターネットによるライブ、録画中継等を実施している。

ライブ中継でのアクセス件数は、平成29年12月定例会の593件から令和4年6月定例会の2001件と議会視聴数が3.5倍と大幅に伸びている。

子育て支援事業のいなみっこ広場は、鉄骨造平屋建、床面積約1,075m²、敷地面積3,465m²で、令和3年5月にオープンした。

この施設は、子育て支援だけではなく世代間の交流も可能としており、子どもから高齢まで利用できる子育て支援エリア、福祉会館エリア、交流・研修エリアで構成されている複合施設である。

また、施設の事業の中では、0歳児の会「わらべうたベビーマッサージ」、1歳児の会「座談会」、遊びの会「カプラ積み木ワークショップ」、世代間交流

卓球などを行っている。

そのほか、子育て世代には、保健師、栄養管理士による育児相談も行い、いなみっこ通信を発行し、事業情報やスケジュールを発信している。

次に、隣接している稲美中央公園こどもの国は、令和4年4月にリニューアルオープンされ、オープンに先駆け、町内の小学校、幼稚園、保育園等の保護者からアンケート調査で意見を参考にして遊具を決め、障がいのある子もいない子ども幼児も一緒に遊ぶことができるインクルーシブルデザイン遊具を取り入れているため、利用者からは大変喜ばれている。

遊具を更新する際に、国の社会資本整備総合交付金（防災・安全）の公園施設長寿命化対策事業を活用している。

7、視察を終えて

姫路市教育委員会との意見交換の中で、義務教育学校にすることで、教職員間のコミュニケーションがはかられ、学校行事などスムーズにできるようになったことや教職員の人的不足の解消にも繋がっている。児童・生徒については、学習意欲の向上、不登校の減少、自尊感情の高まりがみられたことなどメリットは数多くある。

また、議会ライブ中継の効果については、中継を見た町民からの反応が直接伝わることから、議員活動のモチベーションの向上につながるのとことであつたこともあり、改めて町民に開かれた議会を作っていくことの意義を認識した。

なお、人口減少抑制のためには、子育て世代のニーズに合った環境や遊び場等の施設をいかに造っていくかを参考にしたい。